



題字・天野貞祐

第 101 号

令和 5 年 12 月 15 日発行

発行所 〒 112-0014 東京都文京区関口3-8-1

TEL / FAX 03 (3946) 6352 (直通)

獨協同窓会 発行責任者 木原正義

主な内容

獨協祭が開催されました	沖山秀司	(1)
令和 5 年度 通常総会 報告		(2)
令和 5 年度 総会前特別講演会 報告		(3)
令和 5 年度 同窓会 親睦会		(4)
創立 140 周年記念行事が開催されました	鈴木茂行	(5)
謝辞および現役コーチからのアーチェリー部合宿報告	石渡晶悟	(6)
アーチェリー部 インターハイ 2023 出場!	現役生徒からの寄稿	(7)
連載 ドイツ 留学記 ④	都築 修	(8)
獨協ぶらり旅		(10)
OB 会活動報告		(12)
クラス会だより		(13)
私の近況		(18)
編集後記		(20)



<https://www.dokkyo-mejiro.com>

<https://www.facebook.com/groups/297418860299984/>

獨協祭が開催されました

幹事長 沖山秀司 (昭和 49 年卒)

好天に恵まれた 9 月 23・24 日、4 年ぶりに獨協祭は通常開催となりました。土曜日が祝日となり来校者数は 6,000 名を超える大盛況でした。近年の特徴となっている受験希望者の来校数も増加しているようです。同窓会展示教室の定番となった記念写真サービスでは受験を希望する大勢のご家族を撮影させて頂きました。今年は、10 月 22 日に創立 140 周年を迎えるため、メインの展示は歴代校長を年表形式で紹介いたしました。

現在の 上田善彦先生は第 23 代校長です。獨逸学協会と獨逸学協会中学校の設立に尽力された北白川宮能久親王と品川彌二郎を加え、25 枚のボードを展示しました。

OB 会の紹介では、ドクターズクラブ、ラグビー部、サッカー部、鉄道研究部を紹介展示しました。同窓会グッズ、野球部応援キャップ・Tシャツの頒布も好評でした。



同窓会展示教室での記念写真サービス
木原会長(左側)と上田校長(右側)は共に S47 卒

令和5年度 通常総会 報告

令和5年度通常総会は、6月17日(土)午後4時から母校会議室で開催しました。執行部をはじめ、28名にご参加頂き、委任状は159通受理いたしました。独協通信99号以降にご連絡頂いた物故会員22名に黙祷を捧げ、開会しました。独協通信100号でご案内しました1～5号議案に承認頂きました。

令和4～5年度の概要

(詳細は100号通信をご覧ください)

【第1号議案(令和4年度事業報告)】

新型コロナウイルス感染症拡大防止策を学校と協力し継続した。通常総会の後、臨時幹事会を開催。上田校長らを囲んで情報交換会を執り行った。11月から幹事会は従来のアルカディア開催を復活させた。

【第2号議案(令和4年度収支決算)】

支出額 ¥10,862,166
収入額 ¥15,065,229

【第3号議案(令和5年度事業計画)】

前年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止策を学校と協議して講じる。獨協祭、OB講演会に参加、企画する。クラス会等開催時の補助金は、5～10名は1万円、11～20名は2万円、21名以上は3万円に改正する。

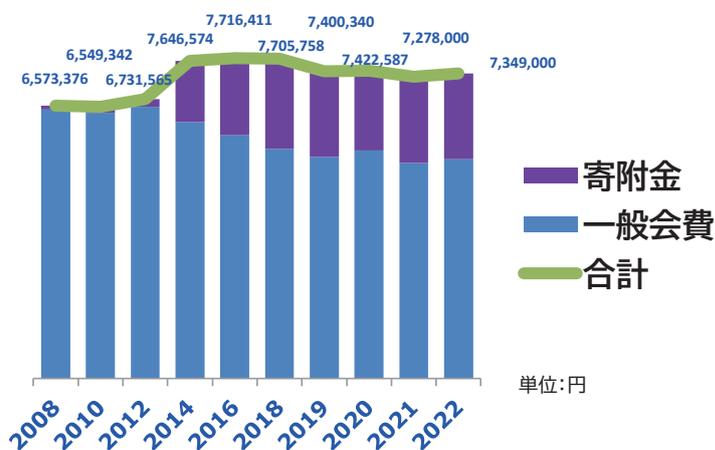
【第4号議案(令和5年度収支予算案)】

支出額 ¥14,129,000
収入額 ¥15,780,000

【第5号議案(監事補充選任について)】

柳原監事の逝去に伴い、新井副会長を監事に推薦し、承認された。尚、新井氏は副会長を辞する事になった。

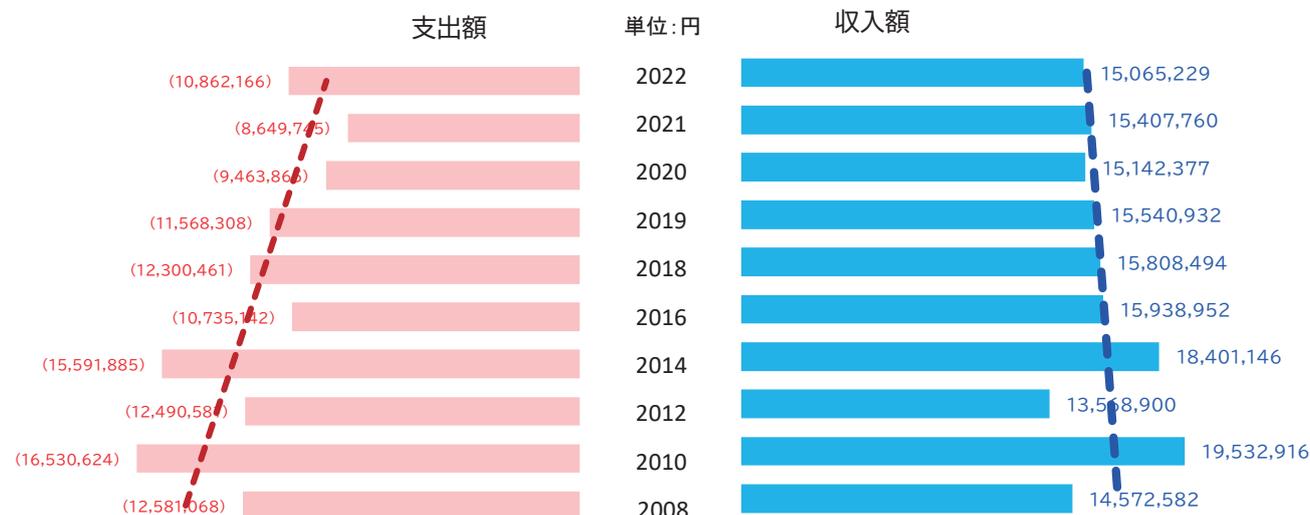
年会費と寄附金の推移



収支差額金の推移



同窓会出入金額の推移



会員の皆様には
年会費の継続納付をお願い申し上げます

令和5年度 総会前特別講演会 報告

令和5年度通常総会に先立ち、15:00 から講演会を開催しました。

演者：高野宗之（平成8年卒）

演題：「獨協から宇宙へ」

高野さんには令和5年2月18日に開催されたOB講演会の演者を務めて頂きました。ご講演の詳細につきましては独協通信100号をご覧ください。



2023年2月18日 OB 講演会

<ご 略 歴>

- 1990年4月 獨協中学校入学
- 1996年3月 獨協高等学校 卒業
- 4月 日本大学生産工学部入学
- 2001年3月 日本大学生産工学部卒業
在学中に宇宙科学研究所（現 JAXA）特別研究員
ケンブリッジ大学夏季コースを修了
- 2003年3月 日本大学大学院を主席卒業
- 4月 三菱重工業（株）入社
H-IIA ロケットの設計及び打ち上げ業務に従事
その後 JAXA にて、国際宇宙ステーション補給機「こうのとり」（HTV）の全体システム開発を行い、NASA ほか多数の賞を受賞
- 2018年 独立
宇宙に限らず不動産業、広告業、物販業などを展開すると同時に多数の会社役員を歴任
- 2021年 一般社団法人宇宙旅客輸送推進協議会（SLA）に参画
宇宙への定期船（スペースライナー）の実現に向けた活動に取り組む
株式会社ラグラボを設立
宇宙開発の経験を用いた経営 / 技術コンサルティングに携わる

保管にお困りの「思い出の品」はありませんか？

制服制帽・教科書・名簿・アルバム・記念メダルなど



資料センターでは獨協の歴史を未来に残す活動をしています。

ご提供頂けます資料がありましたら同窓会事務室までご連絡ください。



野球部応援グッズ頒布のお知らせ

キャップ ¥1,000 Tシャツ ¥500 (LL/L/M)
本年、獨協祭で好評でした。在庫が限られますが、ご希望の際にはメールにてご連絡ください。

総務副委員長：野村芳樹（S54卒）
nomura.yo@nomuramedical.com

令和5年度 同窓会 親睦会

新型コロナウイルス感染症が治まりつつある中、4年ぶりに親睦会を開催いたしました。お世話になった先生方もお招きし、密集を避けるべく例年より広い会場を選びました。令和6年は、6月15日（土）に開催いたしますので奮ってご参加ください。新卒業生は無料招待いたします！



昭和24年卒の宮田和夫さんと木原会長のご発声により親睦会を開始



ブラスバンド部の演奏を聴きながら



社会科新井孝重先生（S43卒）と英語科富岡卓先生



橋本 孝先生



保健体育の吉田卓司先生ご夫妻と上田校長

創立140周年記念行事が開催されました

常任幹事 鈴木茂行（昭和49年卒）

明治16年(1883)獨逸学協会学校の開校以来、本年10月22日に創立140周年を迎えました。

獨協大学名誉教授 新井孝重先生(昭和43年卒)による獨協の歩みと教育精神についてご講演の後、セレモニーが執り行われました。



獨協大学名誉教授で獨協高校の社会科の先生でもございました新井孝重先生の獨協の歩みと教育精神の講演を拝聴し、再認識を致した点を述べてみたいと思います。

1点目は、封建社会から近代国家を目指した明治期には、薩長同盟を支援したイギリスや自由民権運動に影響を及ぼしたフランスに重きを置く英仏学系の私立法律学校が数多く誕生しました。それに対して、都市型工業社会を実現するために、ドイツの国家学を学ぶ先進的な学校として、獨逸学協会学校が創設されたとの歴史的な背景を挙げたいと思います。

2点目は、学園中興の祖であります天野貞祐先生についてです。戦後の獨協は新制中学校と高等学校が認可されるも、学校の経営状況は極度に悪化し、校舎の床には穴が開き、壁板・天井板が剥がれ、屋根の隙間から星空が見える有様であった中、生徒・父母の熱望に応じて母校再建のために天野校長が招かれました。PTAからの寄付金や教師・事務員の献身的な努力から、寄付金が集まる前提で後払いの条件をのんで頂いた竹中組に校舎新築を依頼することができたことが心に残りました。新生獨協を願う先人の熱い思いが目浮かぶようでした。

次に、自宅にありました天野先生の著書「教育50年」を改めて読み返しましたところ、第13代校長就任時の教育方針に目が留まりました。以下にご紹介をいたします。

心構えは正しく、身体は健康、知性に照らされた善意と、豊かな情操を持つ、上品な人間の育成を目指す。これがためには、すべての生徒にそれぞれの人間としての自信と矜持を抱かしめ、各自の天分を開発し、その長所を培養する。上品とは家庭や学校の風格から自然に養われて来る品格である。知識と違って覚えることはできない。温められてしみこむ性質である。

天野校長の就任が昭和27年(1952年)ですので、今日まで70年が経ちますが、天野先生の教えは、直接ご指導頂いた同窓会の先輩方々とお話を頂く際に感じ入ります。また後輩とのコミュニケーションでも、そして同窓会活動で獨協を訪ねますと現役の生徒は必ず笑顔で挨拶をしてくれることから、今なお継承されているものと実感致します。特に「上品な人間」である獨協人の伝統が絶えることなく息づいていることを、新たな気持で思い返すことができました。私も天野先生のお言葉を胸に刻み、これからも自らの成長の糧として行きたいとの思いにあります。

最後に同窓会活動では、会発展のために先輩・後輩と様々な観点で意見を伺うことや、総会後のパーティ等ではお酒も入り、人となりや人生観をフランクに伺えることが何よりの楽しみであり、数多くの刺激を頂いております。同窓会活動は、獨協愛そして人間愛を感じられる場所と思いますので、多くの同窓生の皆様のご参画を心よりお待ちしております。



「獨協の歩みと教育精神」を語る新井孝重先生
S43年 獨協高校を卒業後早稲田大学へ進学
母校教諭を経て獨協大学経済学部教授 現名誉教授



新井先生は昭和12年に発行された「道理の感覚」＝天野貞祐著の中にみる教育方針に繋がる内容に触れ、分かり易く紹介された。



上田校長から感謝状を授与される木原同窓会長

謝辞および現役コーチからのアーチェリー一部合宿報告

石渡 晶悟 さん（平成20年卒業）

私が獨協中学に入学した2002年当時、アーチェリー部は東京都で最下位争いをしていました。今思えばとても部とは言えない状態でした。それから約20年が経ち、現役生の頑張りにより、インターハイに“団体”で出場する東京都で一番の強豪校となりました。どん底にいた部をここまで成長させたのは、当時新任でアーチェリー部の顧問となった齋藤有子先生です。私の全国選拔出場、芝田晃君（2012年卒）のインターハイ個人出場、吉田凌君（2013年卒）の全国選拔出場、陳明輝君の東京都国体強化選手への選出、そして今年インターハイに団体で出場できたことは、齋藤先生の頑張りによるものだと私は思います。アーチェリー部OBを代表して齋藤先生に感謝申し上げます。

2023年、久しぶりに夏合宿が実施できました。今回、現役のコーチが合宿について報告してくれましたので、以下最後まで読んでいただくと幸いです。

こんにちは。私は2023年春に獨協高校を卒業し、晴れて大学生となりました、館直毅と申します。私が受験勉強で部とご無沙汰になっている間、アーチェリー部はインターハイ（以下インハイ）出場をはじめ数々の大挙を成し遂げ、私が所属した時より大きく躍進していました。

今回は、私が、そんな獨協アーチェリー部のOB兼コーチとして2023年夏合宿に参加したことについてご報告させていただきます。



しかし、インハイが合宿直後に控えていた為、出場する生徒と引率の齋藤先生は3日目の午前で新幹線に乗って帰ることになっていました。合宿所でインハイメンバーとのお別れの際は、部員全員で寄せ書きした旗（写真1）を渡して送り出しました。

インハイメンバーは、私も学生の頃から仲良くしていた後輩だったので、私もまるで今生の別れかのように別れを惜しみました（写真2）。



写真1



写真2

朝早くに学校を出発し、バスで合宿所に向かい、合宿所のみなさんや大先輩島崎さんにご挨拶をしたあと、多くの部員にとっては初めての射場に向かいました。

合宿初日から3日目の午前にかけて、多くの生徒は短距離、インターハイに出場する選手は70メートルを射ちました。私と、2年上の高橋建成コーチは、主に短距離を射っていた生徒を指導、仕事の合間を縫って合宿に参加して下さった石渡OBはインターハイに出場する生徒の指導を行いました。インターハイに出場する選手がいたのも相まって、短距離を射っていた低学年の生徒たちも、早く上手くなろうという意識が高く見られ、コーチとして教えることが大変楽しかったです。また、インハイメンバーも練習の合間に後輩の指導し、低学年の生徒達にとって絶好の指導環境だったと思います。

さて、今まで部を引っ張ってきたメンバーが抜け臨んだ合宿3日目午後と最終日の午前ですが、正直ここが一番下級生達が成長した時だと思います。70メートルを射つ人がおらず的が寂しくなったと思いきや、50メートルを射っていた中学3年生が70を射ってみたいと申し出てきて、ほかの学年の生徒も、アドバイスを積極的に求めてきました。生活面でも、残った高校生や中学3年生が不慣れながらも頑張っ部を引っ張ってくれ、合宿を安全に終わらせることができました。

コーチとして参加した初めての合宿でしたが、練習する側として参加した時とは異なり、生徒の成長が実感できたのが、とても面白かったし、やりがいのあるものでした。まだまだご報告したいことは山ほどありますが尺の都合上この辺で終わらせていただきます。

現役生徒からの寄稿ページ

アーチェリー部 インターハイ2023 出場！

帯広市で開催されたインターハイに（2023年8月8～10日）出場したアーチェリー部3選手から頂いた寄稿をご紹介します。

高校2年5組 小宮悠杜

私はアーチェリーを始めてから高校生でインターハイに出場することを目標に、日々努力をしてきました。大きな目標に笑う人もいましたが、4年半の頑張りはこの大会で全国の選手と戦う機会を得ることができたのです。そしてその場に立てたのは、大会まで支えてくださり、応援して下さった方々のおかげでもあります。心より感謝しています。全国の強豪校が集う大会で、レベルの高いスキルやチーム力、私たちに足りないものを知ることができました。この経験を活かし、更に高い舞台上がっていくことを目指し、誰よりも努力していきたいと思います。



高校1年5組 原 将太

インターハイは、全てが初めての大会だった。私はアーチェリーを楽しくやっていて、気づいたら関東大会団体出場、気づいたらインターハイ団体出場と、実感をあまりないまま練習していた。呑気に大会に出て緊張感を全く持たずに射ち、同じ的人と喋っていたら大会が終わっていた。それが私の日常だったが、今回は一味違った。皆が皆、洗練されたフォームに、安定感。その人たちにプレッシャーをかけられている時に生じた焦り。こんなことは人生の中でもない。そしていざ大会が始まると体が全く言うことを聞かない。これも初めての経験。徐々に増すプレッシャーの中で出したのはワースト記録。流石に感情が薄れた。しかし、全てが初めての大会ほどいい経験は積めないだろう。これを踏み台として、次に挑みたい。



高校1年5組 河西大心

北海道の帯広市で行われたインターハイに、校長先生やOBの方々にご協力いただき、東京代表として出場して来ました。各県の代表選手との交流を通して、楽しい経験がたくさんできました。しかし、個人、団体ともに大会への調整がうまくできず、悔しい結果となってしまいました。来年のインターハイも出られるように予選に向けて一生懸命練習し、今回の経験を活かして、来年こそは自分の実力を出し切り、応援してくれる皆様のご期待に応えられるように頑張りたいと思います。



顧問：齋藤有子先生と



ベルリン工科大学本館

ドイツの大学についてももう少し話をしないと留学記にはなりません。とてもこの国の大学を全部知っているとは言えないので、こんな散文で勘弁してください。

さて当時の大学ではドイツ語で講義が行われていました。これを当たり前のことと笑いますか。18世紀まではヨーロッパの大学では母国語ではなくラテン語が公用語でしたし、最近では専門分野にもよりますが英語での講義も少なくないと聞きます。大学ではないのですがマックス・プランク研究所 (Max-Planck-Institute) の公用語は英語でした。これは即戦力になる研究員を諸外国から集めた結果でしょう。実際にドイツ語を一切話さない外国人研究員を知っています。

比較論とまでは行かないまでも、これは日本とは違うなと感じたことを書きます。まず休講がないことです。日本の大学生時代、筆者のような怠け者は休講と聞くと喜んでどこかに遊びに行っていました。しかし大学の休講は言ってみれば不当たり手形です、国や学生から金銭を受け取っていないながら義務を果たさない。日本の学生は債権者として休講にはもっと怒るべきです。「お前が言うな」という声が返ってきそうなのでこの辺で止めます。



冬の校内とっても寒い！

マーレシア、タイなど東南アジアの友人の話を聞くと、母国の大学では英語で講義が行われているそうです。それを一概に悪いとは言いませんが、日本の大学では当たり前のように日本語で講義が聞けて日本語の教科書や専門書が読めるのは、幸運なことなのかも知れません。



1348年ドイツ語圏最古の大学はプラハのカレル大学創設者カール(カレル)大王4世像はカレル橋の東詰にある神学・哲学・法学・医学の4学部をもってウニヴェルジテート(University)と称した。ラテン語が刻まれている

筆者の時代はこのマークではありませんでした



校内に聳える Siemens (ジーマス) 像

ドイツでは書籍が高価です。書店が出版社から本を買い取って売るので結果的に高くなるのです。そのため教科書は借りるのが一般です。必要な数だけの本は貸出専用の図書館にそろっていて無償で貸し出してくれます。日本の大学のように無理やり教科書を買わせるようなことはしません。教科書を買うか、借りるか、はたまた読まないかは学生の自由にさせてもらっていました。

それに、ほとんどの教授はスクリプトを用意して、それに沿って講義を行います。スクリプトは最初の講義で教授が配る場合と購買部で購入する場合があります。また購入する場合も日本円換算で数百円とかなり安価です。無料にすると必要でない人も持って行ってしまふからです。こういった料金を Schutzgebühr (保護料金?) と呼びます。購買部と言ってもひとつの建物で、過去の研究論文などがアーカイブされています (当時は紙かマイクロフィッシュ《Mikrofiche》)。外部に発表された論文は購入できる場合があります。ちなみに筆者の卒論も販売されています (すみません自慢が入りました)。

外国人は学生ビザだけでは就労が許可されませんが、制限日数範囲でアルバイトができます。大学にアルバイトの紹介所があってそこを経由しなければなりません。自分でアルバイト先を見つけた場合でも、そこに届け出る必要があります。学生と雇用主とのトラブルを避けるためです。大学直属の組織ですから紹介マージンを徴収するようなケチなことはしません。



左ページの本館中央部の吹き抜け天井

学費がないのは書きましたが、その他にも学生は金銭的に優遇されています。学食は二択メニューですが日本円換算 200 円前後で食べられるし、安い家賃の学生寮はあちこちに散らばっています。学生保険も充実しています。筆者は入院するほどの怪我をして保険 (傷害保険部分) のお世話になりました。



本館に隣接する化学館 筆者が化学の演習に通った

この国では「学生は働く時間がない、金がない、だから極力金銭的に負担をかけない」などという論理がどこかで働いているような気がします。大学生を金融商品よろしく、寄ってたかって金銭を巻き上げる金融機関がいる某国とは違います。返済苦から自殺者までいるそうじゃないですか。おっと、政治的なことを書くのは独協通信の趣旨ではなかったですね。

沖縄ダイニング 33

中瀨 圭さん 平成6年卒業

中瀨さんは吹奏楽部、卒業後も吹奏楽部常任指揮者として10年ほど母校のためにご尽力されました。その際は吹奏楽コンクールで金賞を獲得、札幌で行われた東日本吹奏楽大会への出場を果たすなど輝かしい成績を残しました。

高校卒業後は獨協大学に進学し管弦楽団に所属しました。大学卒業後は音楽活動を続けながらも、飲食業に興味を持ち、たまたま所属事務所内に沖縄物産店があり、その飲食店立ち上げに関わったことのある経験も功を奏して、さんさんの開店となりました。ちなみに「33」という名前の由来は

- ① 33歳で出店した
- ② 住所を足すと33になること
- ③ 太陽がさんさんと降り注ぐイメージからだそうです。



中瀨さんの主管は柳本先生、若井先生、音海先生、新井洋一先生でしたが、やはり音楽の上林先生が印象に残っておられるそうです。

とにかく在学中は学校生活が楽しく、何事にも率先垂範型で、生徒会副会長も務められました。

令和5年7月17日にもコンサートで指揮をおとりになり、その時も聴衆の中には多くの卒業生やご父兄がいらっしゃいました。



Google map より

インタビューの中で、最も印象的だったのは、「人が集まる場所が作りたかった!」と仰ったことです。それが現在のサンサンというわけです。

高校時代の同級生、吹奏楽部の仲間、大学の友達などが事あるごとに「33」に集います。また皆で行きたくなるようなお店でした。

お店は15名が入れるアットホームな雰囲気、沖縄の定番料理が並びます。

また「赤い沖縄そば」などオリジナリティーあふれるメニューも目を引きました。沖縄と言えばオリオンビールや泡盛が有名です。もちろんございます。今回は3人で伺いましたが、手軽な料金でお腹いっぱいになりました!

〒108-0074
東京都港区高輪 3-22-8
電話 03-3445-9833

営業時間 11:30-14:00
18:00-24:00

定休日 土・日・祝



Google map



生姜が育つ さいたま市見沼区

父、祖父が医師ということもあり、獨協中学へ。美術部に入り、自由でのびのびしたりべラルな校風が好きだったそうです。

特に印象に残っている先生は、文書を要約する技術をたたきこまれた国語の柳本先生とコミュニケーションツールとしての外国語を教えられた英語の河野先生だそうです。

大学卒業後、酒販会社に勤務。資格や能力もなく会社に生かされる生活に危機感を覚え、中国語修得を目指し台湾に留学。外国語を学ぶ価値を河野先生から学んでいたことも背中を押したそうです。台湾で妻となる方にめぐり逢い、帰国後は翻訳事業を手掛ける訳国株式会社を立ち上げました。

「株式会社しょうがのむし」を起業し、2021年7月に醸造所を竣工、本格的な醸造を開始しました。この事業で休耕地を生姜栽培に活用する点が評価された経験から、現在では複数の社会課題に挑戦しているそうです。例えば、残渣を堆肥として活用すること、フードロス为原料として活用すること、商品ラベルの添付を社会福祉法人に委託すること、廃棄される和服を緩衝材として活用することなど、持続可能な社会を目指すチャレンジを熱く語ってくれました。

今回、3種類のジンジャービアを試飲させて頂きました。それぞれ個性があり、とてもおいしく、食事に合いそうでした。ノンアルコールですが、体がポカポカして、まるでお酒を飲んだような不思議な感覚です。



2017年の旧正月に奥様の実家に帰省した際、使用道に困っていた大量の生姜があり、インターネットのレシピを参考にジンジャービアを作ったところ親戚に大好評。そんな出来事のあと、地元の見沼田んぼに休耕地が広がる光景を見た時、ここでジンジャービアを造ることを思い立ちました。



株式会社しょうがのむし

〒337-0014 埼玉県さいたま市見沼区大谷 1262-3



ホームページ



Google map

ホームページからご購入ください

ワンダーフォーゲル部OB会 秋の親睦会2023

手島 達雄 (昭和47年卒業)

コロナ禍にあってOB会の活動も半ば休眠状態でしたが、新型コロナの感染拡大もだいぶ落ち着いてきたので、7月23日には小石川後樂園にて顧問だった飯島先生を含め14名の参加を得て、OB会総会を開催することが出来ました。この間にワンダーフォーゲル部顧問もされていた金先生が急逝するなど悲しい出来事もありましたが、久しぶりに元気な顔を合わせ楽しいひと時を過ごすことが出来ました。



秋の親睦会

その折に、コロナ禍以前には毎年小諸にある学園の日新寮で行っていた「秋の親睦会」の再開を望む声があがり、開催の運びとなりました。幹事は軽井沢にあるスーパーストア「つるや」で牛肉やラムなど肉や秋刀魚やエビ、サザエなどの海鮮、サツマイモや玉ねぎなどの野菜などバーベキューの食材をたっぷり買い込んで臨みました。9月23日は秋晴れ。グランドの下に広がる小諸の街並みや、遠く八ヶ岳の山々を眺め、OBやその家族などと顔を合わせる事

ができました。



総会

旧日新寮は目白の旧校舎の廃材を利用した木造の建物だったとか、夜トイレに行くのが怖かったなど中学生の頃の思い出を持っている者も…。

グランドにブロックを組んで炉を作り、炉を囲んでバーベキューを楽しみながら、ビールのコップを片手に昔の山行の話や先輩たち、そして故高梨顧問（ご子息親子も参加）等々への思い出を語りながら夜は更けていきました。

一夜が明けて、秋らしい雲がグランド一杯に広がっていました。朝食を済ませ、記念写真を撮ってまたの再会を期して解散となりました。

ワンダーフォーゲル部OB会のホームページ
<https://dwvob.sakura.ne.jp/wp>



柔道部OB会 中嶋耕平先生、順天堂大学スポーツ科学部客員教授就任祝い会

萩野 元祐 (昭和49年卒業)

柔道部OBの中嶋耕平先生が令和5年5月1日、順天堂大学スポーツ科学部の客員教授に就任されました。OB会有志による就任祝い会が原宿南国酒家で行われました。

中嶋先生は2008北京、2012ロンドン、2016リオデジャネイロ、2020(2021)東京オリンピックと日本代表選手団の医務を担当、リオ大会以降は医務責任者を務めるなど永年オリンピックに携わってこられました。現在は国立スポーツ科学センター副所長、同センタースポーツ医学・研究部長、主任研究員としてトップアスリートの治療やリハビリなどのメディカルサポートを担当しています。(NTT東日本関東病院にも勤務)



サッカー一部OB会 第三回 物故者供養

沖山 秀司 (昭和49年卒業)

令和5年6月4日(日)古河市にある日蓮宗 長久山 本成寺にて第三回物故者供養を執り行いました。創部者である高橋龍二さん(S34卒)をはじめ、15名が参列しました。交流があったS14卒の渥美さん、お世話頂いた顧問の先生を含め物故者20名のご冥福を祈りました。

その後、街中華「一平」さんにて献杯を捧げ、親睦会となりました。

尚、本成寺のご住職はS44卒サッカー一部OB 電貫省さんです。



クラス会だより

昭和31年卒業 クラス会

島田 秀考 (旧姓：藤井) (昭和31年卒業)

5年前に傘寿を迎えた85歳又は86歳の、昭和31年3月高校卒の同窓生です。我々は昭和27年2学期に就任なされた天野貞祐校長先生より卒業証書を授与された最初の中学生です。大変名誉の事と思っております。

同期会も絶えて久しくなりました。8名ほどの親しい仲間が、「気軽にちょこちょこ集まろうよ、年寄りなんだからサ。」という事で年に2-3回会う事にいたしました。2022年11月の会の写真がこれです。若いつもりで居ても写真は正直、皆老けていますネ…この写真を今年の4月の会で渡され一同啞然…やっぱり歳だネ。オジンだネ…常連の本田陽太郎君は今回も欠席、前は都合悪かったみたい、今回は調子少し悪い様とのこと。次回は来られるでしょう。

ふぐ料理に舌鼓、お箸片手に思い出話に、四方山話にと時を忘れて花咲爺さん。年寄りは、明るい内の午

餐会、観音様に手を合わせ明るい内に三々五々、家路へと…今回も浅草が会場でした。

写真：前列左から 入江、丸山、三富、後列左から 齊藤、藤井、栗原



獨協 37年 傘寿の会

大野 正昭 (昭和37年卒業)

三年前に開催したあとコロナ禍のため開催できなかったがやっと銀座ゆうき丸にて、令和5年6月10日に開催にこぎつけました。45人に連絡をしましたが出席者は12人(山本、蓮池-旧姓河津、佐藤、斎藤、金子、北村、中沢、豊田、伊藤-旧姓高野、大野、一寸木、大久保一彦)その内10人は中学からドイツ語クラスで高校卒業までクラス替えなしで少年から青年までの6年間、一緒に学び、遊んだ連中です。その間の担任の仁戸田先生、神田先生、小島先生及び



同級生の三塚、春野、藤井、荒木、加藤、横山、長島、金、竹内、長浜、天田、大川、竹井の諸君が物故者になりました（合掌！）。又13人は体調不良で出席ができないとのことでした。4人は地方在住のため出席出来ませんでした。（尚、橋本君はドイツに永住しており元気です）

現在の調子はどうか、日常どう過ごしてるのか、出

席出来なかった連中の消息、学生時代の逸話等等、（もう将来の事は誰も話題にしませんでした）てんでんばらばらに話してあっという間に12時から15時までの時間が過ぎ写真を山本君（ニコンに勤務してドイツに長年にわたり駐在していた）が撮り、来年の開催及び幹事を決め散会しました。

昭和38年卒 英語科 英語クラス同期会

辻 定利（昭和38年卒業）

コロナ疾病の少しの落ち着きのもと、5年ぶりに再会する。恒例の38年卒英語クラス同期会が、令和5年5月30日、例年とおり上野公園内「韻松亭」にて開催され6名が集う。大賑わいの上野公園内の昼の会合である。

皆、無事に再開出来た喜びとともに、どのように過ぎて来たか、何を感じたかなど、冷静かつ熱く話をした。厚生労働省の無策と施策で経済的及び精神的な被害を受け、市民へも少なからず損害をもたらしたと雄弁に話す人、医師精神を捨てた医師の存在を見聞した人、サラリーマン生活を完全に終了しボランティア活動を開始した人、息子に経営をバトンタッチし少しの余裕が出来た人、ウクライナ侵攻から世界における核保有問題について熱心にスピーチした人など、久しぶりの充実した交流であった。

乱れた世の中であって、継続的な社会への関心と自己研鑽する大切さを後輩諸君へ伝えることを願って、散会となる。



寄付金納入者一覧（「100号」以降）

（敬称略）

竹内 正和 (昭和18)	30,000	斎藤 幸一 (昭和41)	100,000	伊藤 英一 (昭和52)	10,000
石井 進 (昭和20)	30,000	大隅 敏彦 (昭和41)	10,000	鈴木 敏彦 (昭和52)	10,000
大池 茂保 (昭和22)	10,000	獨協昭和41卒1組傘寿の会	25,000	遠山 洋一 (昭和53)	10,000
山口 精三 (昭和24)	10,000	白井 信男 (昭和41)	10,000	(匿名) (昭和53)	(匿額)
桑嶋 陽一 (昭和29)	10,000	浅野 一 (昭和42)	(匿額)	知念 信昭 (昭和54)	30,000
土生 裕 (昭和30)	10,000	宮崎 輝雄 (昭和42)	10,000	野村 芳樹 (昭和54)	25,000
大谷 壽男 (昭和31)	10,000	(匿名) (昭和42)	30,000	山口 壮 (昭和54)	13,000
島田 秀考 (昭和31)	20,000	渡辺 雅博 (昭和42)	5,000	(匿名) (昭和56)	100,000
小川 秀明 (昭和32)	5,000	齋藤 達雄 (昭和43)	10,000	鈴木 一成 (昭和58)	30,000
飯嶋 義信 (昭和33)	10,000	戸川 清 (昭和43)	10,000	長島 鎮 (昭和59)	(匿額)
有我 昭蔵 (昭和34)	10,000	村上 順 (昭和43)	10,000	吉松 栄彦 (昭和59)	10,000
福井 晃 (昭和34)	(匿額)	長山 和夫 (昭和44)	10,000	松原 弘明 (昭和59)	10,000
高橋 龍二 (昭和34)	10,000	西原 潔 (昭和46)	10,000	山崎 博之 (昭和59)	10,000
駒井 義昭 (昭和34)	(匿額)	新井 雅安 (昭和46)	10,000	藤野 剛 (昭和62)	10,000
大沢 悠里 (昭和34)	(匿額)	小川 守一 (昭和46)	10,000	藤田 和彦 (平成1)	20,000
児島 伸一郎 (昭和34)	10,000	森 一博 (昭和47)	10,000	玉井 道寧 (平成4)	10,000
吉本 明康 (昭和34)	10,000	松本 利也 (昭和47)	10,000	國松 常芳 (平成10)	140,000
塩崎 晴朗 (昭和34)	10,000	荻野 和律 (昭和48)	10,000	星野 剛 (平成10)	20,000
玉生 竹男 (昭和34)	(匿額)	(匿名) (昭和48)	10,000	河手 敬彦 (平成12)	10,000
藤田 実彦 (昭和35)	20,000	大塚 智博 (昭和48)	10,000	稲葉 由樹 (平成22)	5,000
神保 孝雄 (昭和35)	20,000	奈良 隆寛 (昭和49)	10,000	中村 允人 (平成22)	10,000
里見 治 (昭和35)	50,000	久慈 栄志 (昭和49)	10,000	稲葉 由樹 (平成23)	10,000
梅木 建昭 (昭和35)	(匿額)	柳沢 潔 (昭和49)	5,000	(匿名) (平成29)	10,000
松木 益道 (昭和36)	5,000	柳澤 孝嘉 (昭和49)	30,000	(匿名) (平成30)	10,000
松本 雍 (昭和37)	5,000	奈良 隆寛 (昭和49)	10,000	(匿名) (令和2)	(匿額)
益井 邦夫 (昭和37)	10,000	足立 雅樹 (昭和49)	5,000	矢部 雄大 (令和4)	20,000
川辺 健二 (昭和37)	20,000	木村 宗孝 (昭和50)	10,000	渡部 真徳 (令和4)	10,000
一寸木 孝義 (昭和37)	10,000	伊藤 公一 (昭和51)	100,000		
吉田 隆 (昭和39)	(匿額)	池田 亮 (昭和51)	10,000		

ご協力ありがとうございました。今後とも会費納入および財務拡充のご寄付をよろしくごお願い申し上げます。

獨協同窓会は任意団体のため、寄付金控除制度の対象になっていません。

確定申告での所得控除や税額控除は受けられませんので、予めご了承ください。

古川38会（昭和38年中学卒業）ミニクラス会

遠藤和男（昭和41年卒業）

6月17日（土）15時から新橋のサラリーマンの聖地であるニュー新橋ビルの地下にある中華料理福盈門で古川38会ミニクラス会を開催いたしました。出席者は写真前列左から、松丸、中村、遠藤、高濱、佐藤、後列左から、石山、高野、野原、小曾根、渡部の合計10名でした。

古川38会とは、昭和35年に中学に入学し、今は亡き恩師古川成太郎先生に3年間ご指導をいただき、昭和38年に中学を卒業した絆の強いグループです。恩師生存中に会の冠に「古川」の名前をご了承いただいた唯一のグループです。ちなみに卒業以来今年で60年を経たこととなります。いわば卒業60周年というわけです。

この数年コロナ禍のため本会の開催を断念していましたが、その間、逝去された、小松、須田、長田、内田の各君のご冥福をお祈りいたします。

今回のミニクラス会のメンバーはラインで繋がって年中連絡しあっている9名と、相変わらずガラケーで意地を張っている野原を加えたものです。



話は昔話に花が咲き、また、前立腺癌術後が2名、肺がんが1名と病後の症状を心配しましたが、皆元気いっぱい飲んでおりました。75歳の基準を超える量のお酒ですっかり酔っ払いました。古川38会の本会は11月18日に開催を決定して、無事終了いたしました。

昭和38年度 高校1年3組ドイツ語クラスのクラス会

伊藤新（昭和41年卒業）

昭和38年度高校1年3組・高校入学ドイツ語クラスのクラス会の報告です。

会場はメトロポリタンホテル池袋内の中華料理店「桂林」です。コロナの影響で3年間ブランクがありましたが、漸く久々に開催することができました。

出席者は10名、療養中やリハビリ中のメンバーが数人あり、これまでの最小人数、主幹の糸井先生もリハビリ中で真に残念でしたが欠席されました。

高校入学ドイツ語クラスは、2年までドイツ語強化カリキュラムが続きクラスメンバーが変わらなかったため、これまで1年入学時のクラス会を続けてきました。初めて出会って以来60年の月日が経過しているわけですが、それぞ



れの印象は全く変わることなく、時間が足りないほど大いに盛り上がり笑いが絶えないひと時を過ごしました。参加者には当時獨協の構内で販売されていた関口フランスパンの「フォンデュ」を配り、次回の再会を約束して解散となりました。

7月会35 1回クラス会（S35に中学1年）

中村昭美（昭和41年卒業）

2023年7月7日（金）にアルカディア市ヶ谷 中華料理「翠」にて開催しました。

後期高齢者の仲間入りをして今後は会える機会も少なくなるので、土曜日や日曜日よりも金曜日の夜なら参加できるという話があり実現しました。中学入学が昭和35年の春、4クラス200名で始まりました。その1組と2組（神田先生クラスと栗原先生クラス）の100名の仲間が集まりました。今回はその中32名に連絡をして、22名の参加を予定しましたが、暑い日で18名の参加になりました。2組の幹事、喜多君も連絡には苦慮していましたが、9名の参加。1組は当初10名が参加予定でしたが、9名が参加。5時か



ら始まりました。今回卒業以来初めて綾部君が参加して交流を喜んでいました。1組は北岡君、小杉君、斎藤君、下村君、下山君、菅谷君、松本君、森田君、中村。2組は綾部君、石田君、上原君、喜多君、島田君、白水君、平岡君、山口君、横山君。不参加者の近況報告後、18名の近況報告を始めました。

各々から問い合わせがあり、あっという間の時間が過ぎ、今後の開催を幹事に託し3時間後に散会しました。又、来年何人が参加出来るか？ この記事を読んだ方、次回は参加してください。総合幹事：中村よりお願い！「同窓会年会費」及び「140周年の寄附」をお願いします。

昭和46年卒業 1組クラス会

竹内文生（昭和46年卒業）

久しく開催がされていなかったクラス会を令和5年8月6日（日曜日）に椿山荘の隣のカフェレストラン「oto no ha」にて開催しました。伊藤君がネットニュースで紹介されていたことから早川君の発議で開催することになりました。卒業時約50人いたクラスメートのうち確認できる物故者が既に10名あり、所在不明も約10名となり寂しい限りです。連絡の取れた者の内14名と中学1年から3年間を過ごした平岩君、坂下君の両名を加え総勢16名が集まりました。令和5年10月22日に同期会が開催されることが紹介され、2年後の再会を約束して散会となりました。



昭和46年卒業 同窓会（古希の会）

岡田裕宏（昭和46年卒業）

猛暑が続いた2023年も、開催当日の10月22日（日）には、秋の風が吹き始めるようになり、古希を過ぎた仲間たちも、暑さを気にせず集まれたことと思います。獨協高等学校を卒業して、すでに52年！半世紀を超えての同窓会で、幹事としては何名くらい集まれるのかと不安な気持ちもありましたが、蓋を開けてみれば71名の仲間が集まり、会場の新橋第一ホテル東京21階にある「ラウンジ21」では、もうイモ洗い状態。幹事としては会場の選択を誤ったかとも思いましたが、それはそれ！仲間との距離が縮まり、かえって話が弾んでいました。卒業当時の3年7組主管だった石井征次先生（来年1月で81歳とのことです。15年前と変わらず若々しく感じます。）をお招きして、開宴挨拶、乾杯のご発声をいただき、会はスタート。以前までは、獨協高校の卒業生でもあり、我々卒業時の2組主管金有一先生を還暦会にご参加いただいたり、6組主管だった太田朝博先生には乾杯のご発声もお願いしたりしましたが、それぞれ2021年（令和3年）4月12日、2022年（令和4年）1月8日に逝去され、ご参加が叶わなかったのは大変残念な思いです。クラス別にテーブルを配置し、そこに置かれた欠席連絡をもらった仲間からのメッセージを読みながら、また途中、15年前（55～6歳当時）に開催した同窓会のビデオを流し、まだ若かりし（？）頃の仲間を見ては冷やかし、さらにこの15年で亡

くなった仲間を思い出しては、当時の話に盛り上がっておりました。また、クラス別に分かれて一人一人近況を発表してもらいましたが、人数が多く、幹事がタイムキーパーをしながらもひやひやもので、とにかく話好きで、発表したいものが多く、長い話にはベルを鳴らして、何とか時間内で全員の発表が終わりました。物足りなかった仲間もいるのかとも思いますが、お開き後に仲間同士連れだって飲みに行ったことかと思えます。獨協同窓会から、開催に向けた支援金のほかに、獨協学園の校歌が印刷されたクリアファイルや「I♥DOKKYO」のステッカーなどもいただきました。校歌を読んでいくと、頭の中では自然とその旋律が流れ、また高校時代の思い出も浮かび上がってきました。ありがとうございました。石井先生のご挨拶の中にもあった、「獨協学園生徒の品格、品位の高さ」を改めて胸に刻み、今後の余生を送るとともに、またの再会を楽しみにしたいと思っています。



昭和 47 年卒 獨語クラス、古希記念クラス会

眞田 毅 (昭和 47 年卒業)

2023 年 5 月 20 日、目白駅「TRE GATTI」で開催しました。私たちの時代は獨語クラスは中 1-1 から高 3-1 まで 6 年間同じメンバーで過ごしました。天野貞祐校長の時代で、高校時代には週 1 回天野校長によるドイツ語の授業があり、昭和の獨協を彷彿させるものです。

また私たちは卒業翌年に獨協医科大学が設立されたため、医科大入学希望者は全員 1 浪のうえ、第 1 回入学試験を受けた 1 回生になります。クラス会は還暦から本格的に続けていましたが、古希の次は喜寿か、米寿かそれとも誰かの通夜かなどと冗談にもならない年齢に達し、さすがに現役で頑張っている者も少なくなり、医師としては女子や後輩に引き継いだり、社会人はリタイアして孫の相手や新たな趣味で第二の人生を謳歌しようとしているものもいます。

今回を機に幹事は大石、眞田から安楽、浜野に交代しました。同窓会の木原会長は同期なので、今度皆で集まるときはご一緒したいと思います。



48 会 (ヨンパチ会) 学年同窓会

金 承 一 (昭和 48 年卒業)

2023 年 10 月 21 日土曜日に椿山荘に於いて 48 会 (ヨンパチ会) 学年同窓会を開催しました。今回は 4 年ぶりの開催と卒業 50 周年ということで 57 名の仲間が集まりとても素晴らしい時間を共有する事が出来ました。50 周年の企画として、学校見学も行い 30 名以上が参加し屋上ではすっかり変わった景色を背景にまるで旅行者のように記念写真を撮っていました。現役の上田善彦校長を来賓としてお迎えし色々とお話しを伺うことも出来ました。また全員に記念品としてロゴ入り小銭入れを用意しました。クラス幹事も新しい仲間が増えたので、



年明けから来年の同窓会 (古稀) に向けて活動始める予定です。

昭和 52 年卒業 3 年 4 組クラス会

土 岡 央 (昭和 52 年卒業)

昭和 52 年 3 月に卒業以来、3 年 4 組の全体クラス会は開かれていませんでしたが、還暦を過ぎた令和元年に、曾谷村君が同窓会事務局のお力を借りて同窓生に連絡を取りクラス会開催に向け尽力してくれました。しかし、コロナ禍となった令和 2 年 3 月に安全を考慮し近隣同学年卒業生 12 名 (当時日野市医師会会長の塩谷君と伊東市の中原君は少し遠方より参加) にて浅草にて開催。令和 3 年 10 月にもミニ同窓会を 6 名にて丸の内にて開催しました。

そして、令和 4 年 12 月 10 日に 3 年 4 組クラス会を菜な丸の内店にて開催しました。自己紹介・近況報告等を行い 45 年ぶりに高校時代を懐かしみ歓談が

尽きない一晩を過ごしました。次回は 12 月 9 日を予定しています。



獨協ハーフ会

西 原 由 恭 (昭和 53 年卒業)

コロナ禍で中止しておりましたが、9/2 (土) に 4 年ぶりに獨協ハーフ会 (昭和 53 年獨協高校卒業有志

の会) が日暮里ホテル ラングウッドで開催されたのでご報告します。

クラス会だより

当日は恩師 富岡 卓先生、山田直巳先生にもご出席いただき、総勢約 20 名が学生時代に戻り、和気あいあいと楽しいひと時を過ごしました。近況紹介では自身の健康問題が多くなったのかもしれないです。ね～笑笑

あっという間に二次会も終了し、来年の再会を期してお開きと相成りました。皆さん、また来年元氣にお会いしましょう!!!



昭和 54 年卒業 同期会

野村 芳樹 (昭和 54 年卒業)

新型コロナウイルスの影響で、3 年間延期を余儀なくされていた同期会がようやく、母校の前にあるホテル椿山荘東京バンケット棟 5F【こもれび】で 2023 年 9 月 17 日(日)、16 時から開催されました。34 名の出席があり、いかに皆が待ち望んでいた同期会であったかと実感しました。

今回は杉村浩之君と柄澤道夫君が幹事となって、綿密に打ち合わせを重ねた事もあり、素晴らしい同期会となりました。独協通信を見て参加してくれた仲間もいて大変懐かしく、まるで高校時代にタイムスリップしたようでした。還暦を過ぎて、持病を抱えている仲間もいましたが、思い出話は尽きる事無く、特に思い出アルバムスライドショーは幹事のタイムリーな企画で、近況報告でも大変盛り上がりました。同窓会の現況については、私が詳細にお話しました。参加記念品として獨協 T シャツとボールペンを全員にお渡しし、記念撮影の後、飲み足りない 18 名は 2

次会で池袋のカラオケ PASELA へ繰り出し、こちらでも熱唱に次ぐ熱唱で大変盛り上がりしました。大変名残惜しく、次回の同期会開催を約束しての散会となりましたが、帰り道でも校歌を熱唱して通行人にひんしゅくを買ってしまった事を付け加えておきます。同期の【絆】を実感した実り多い同期会でした。



志 村 会

吉川 怜 (平成 18 年卒業)

コロナ以来、開催を延期していた 2006 年 3 月卒業生、2 組のクラス会が 6 月 3 日土曜日 18 時より新宿にて開催されました。久しぶりの開催ということもあり、8 名(二次会からもう 1 名追加で参加)と少しさみしかったものの、始まってみれば大盛りあがりのとても楽しい時間でした。『感染症なんかは俺達のつながりを断ち切ることはできない!』ということで、これからは変わらず開催していきますので、今回来れなかった人は次回参加してもらえればと思います。年末には学年全体でやるので、卒業生も先生方も楽しみに待っていてください。



私の近況

●会報100号拝受、同期の元会長宮田氏の健在をはじめ先輩と後輩の交流、恩師の墓参りの記事など心温まる思いで拝見しました。先日、盟友高場氏を訊ね、獨協時代の思い出や旅立った友人のことを語り合いました。 橋本 徳朗 <昭和23年卒>

●平成8年卒の若き同窓生・高野宗之さんの特別講演「獨協から宇宙へ!」を聴講して大変感動しました。JAXAの特別研究員として宇宙への定期船(ス

ペースライナー)の実現に取り組んだ実績は獨協学園の誇りであり、日本の宇宙科学の宝です。片や、本年は獨協創立140年です。あと10年で150年を迎えます。2030年代に宇宙科学がどこまで発展して人類に貢献するか、大変楽しみです。 齢86歳、我が獨協の発展、そして宇宙の雄姿を楽しみに、健康長寿を祈るのみ! 小川 秀明 <昭和32年卒>

●クラス会等久しく無くなり、淋しい限りです。元氣

私の近況

に動けるうちに皆と会いたいと思っています。お元気な先生方にもお会いしたいです。私はお陰様で一病息災、元気にしております。小山 憲雄 <昭和38年卒>

●今私は、二足の草鞋を履いています。本業の日本酒造りを遠戚の若者に引継ぐ一方、地元愛媛の情緒障害児治療施設の指導員を数年続けています。獨協に入り、ドイツ語を第一外国語として習い、勉学への意欲の決定的な転換点となった3年間を遥かに振り返ると、あの短いながら印象深い青春の同僚達は息災かと思いつつ「独協通信」を開くこの頃です。

宇都宮 (旧姓：伊藤) 繁明 <昭和39年卒>

●今でも大熊慶四郎先生には感謝しています。授業ではいつも国家観の違いでぶつかっていた先生ですが…、大きく寛容なお心で見守って導いて下さりました。人生の大事な時に素晴らしい先生と出会うことができ～幸運でした！ 本当にありがとうございました。中山 幸裕 <昭和40年卒>

●30年程前から、地元の長野市に伝わる獅子舞の保存会に入り、篠笛を担当しています。弟子もいますが、一人前に吹ける者から、ようやく音の出る者まで色々です。善光寺住職の就任式や長野オリンピック関連の行事に依頼されて獅子舞を奉納していますが、その際の外国人向けのアナウンスを、英語・独語で頼まれ、独語を木原同窓会長にお願いして、外語大の教授のお手をわずらわせました。ご縁を深く感謝しています。北島 晴比古 <昭和44年卒>

●100号おめでとうございます。

鈴木 豊彦 (懸二) <昭和48年卒>

●仙台市で発達障害やグレイゾーンと言われるこどもの診療をするかたわら、インドの弓奏弦楽器サーランギを弾いて穏かな世界を作っています。

奈良 隆寛 <昭和49年卒>

●相変わらず元気に老後を楽しんでおります。

梅津 英幹 <昭和50年卒>

●いつも独協通信をご送付頂き、誠にありがとうございます。大学卒業後、関西に配属となり昨年末に定年。今は嘱託で勤務しています。今でも文教地区関口で学んだことをなつかしく思い出します。獨協精神を大切に、今後も力強く生きていきたいと想います。これからもよろしくお願ひいたします。

山田 勝 <昭和56年卒>

●病院勤務と親の介護を続ける毎日です。気分転換にピアノを弾いていますが、獨協にいた影響か、今でもドイツロマン派の曲が好きです。弾いていると時々学生時代の日々が脳裏に蘇ることがあります。当時の同級生や部活で一緒だった方々は今どうしているのだろうかとも考えます。

小林 潔 <昭和59年卒>

●長女は社会人2年目、成人式を迎えます。次女は高3、動物関係の専門学校に進学希望です。長男は中2で、受験が心配です。私は、今の区民事務所3年目となり、秋の駅ビル内開所に向けて忙しい毎日です。

藤島 一郎 <平成7年卒>

●2021年末に第1子(長男)が誕生し、翌22年は丸1年育児休業を取得し、子育て中心の生活を送っていました。パパ0歳は学び、発見の連続で日に日に凄く早さで成長する息子に驚くばかり。9月には知人を訪ね、アメリカ・ミネアポリスへ渡航。3週間滞在し貴重な体験をしました。今では1歳半になり保育園に通っていますが、毎日出来ることが増え、息子の成長を楽しみに日々を過ごしております。

松本 憲昌 <平成10年卒>

●20代の頃より刀の砥師に弟子入りしてからあっという間に40歳に。自分が生きている間にあと何振りの刀を砥ぎ上げることが出来るのかとても楽しみです。余計なことに脇目も振らず刀の砥ぎにひたすら打ち込めているのは師匠や家族、そして獨協の自由でのびのびとした校風から得たもののおかげです。

仙波 謙治 <平成14年卒>

●大学へ入ってから勉強に部活にと、高校生活よりも忙しい毎日を送っています。また、バイトを始めたことで今まで生活していて気付かなかった事や学べなかった事についても多く得ることが出来ました。部活はライフセービング部に所属し、毎週末の練習やこれからの夏に備えて、日々トレーニングを重ねています。

池田 司 <令和5年卒>

●私は、現在大学で英語教員を目指すため、イギリス文学や言語学を学んでいます。休日には、趣味の映画をよく観ていて、最近「ワイルドスピード」を観ました。

深田 敬介 <令和5年卒>

物故者名簿 (『独協通信』100号以降) ご冥福をお祈り申し上げます

卒業年	氏名	物故年月日	昭和29年	山田 克彦	2022/2	昭和41年	小松 邦彦	2022/8/20
			昭和30年	坂本 敏	2021	昭和41年	江島 健二	2017
昭和18年	小関 行徳	2023/2/20	昭和30年	榎本 金次郎	2011/12/1	昭和43年	永井 良樹	
昭和20年	岩森 春樹	2023/1/10	昭和31年	大倉 舜二		昭和44年	高島 直樹	2023/10/2
昭和20年	鈴木 清太郎	2022/1/17	昭和34年	玉生 竹男	2023/1/25	昭和47年	齋藤 嘉章	2023/5
昭和20年	伴 敏夫	2023/2/20	昭和38年	後藤 勝治	2023/4/7	昭和47年	須藤 秀明	2018/5/3
昭和20年	井口 正美	2018/7/9	昭和38年	針谷 吉人	2022/12/26	昭和47年	石引 久雄	2022/11
昭和20年	若松 幸司	2022/11/6	昭和38年	鈴木 義隆	2023/10/8	昭和47年	松村 善一	2023/9/5
昭和22年	片山 晴彦		昭和40年	小笠原 浩二	2023/2	昭和47年	菅野 宏	2020/1/15
昭和25年	秋葉 泰男	2022/8/19	昭和40年	大村務	2022/2/9	昭和47年	山田 敏彦	
昭和26年	小西 勇	2017/10/19	昭和40年	奥家 清造	2018/2/10	昭和47年	加藤 健二	2023/5
昭和26年	近藤 進	2016/10/11	昭和40年	布川 博永	2019/6/16	昭和60年	齋藤 知彦	2023/2
昭和27年	石川 明	2023/5	昭和40年	今関 博人	2019/11/24	平成03年	高見 誠	2022/11/10

～甲状腺を病む方々のために～

ITO HOSPITAL 伊藤病院

院長 伊藤公一 (昭和51年卒)

TEL. 03-3402-7411 東京都渋谷区神宮前4-3-6 www.ito-hospital.jp

医療法人社団甲仁会
理事長 伊藤公一

NAGOYA
名古屋甲状腺診療所

TEL. 052-252-7305
名古屋市中区大須4-14-59
www.kojin-kai.jp/nagoya/

SAPPORO
さっぽろ甲状腺診療所

TEL. 011-688-6440
札幌市中央区大通西15丁目1-10 ITOメディカルビル札幌5F
www.kojin-kai.jp/sapporo/

医療法人社団
野村会 昭和の杜病院

東京都昭島市宮沢町 522-2

理事長 野村芳樹 (昭和54年卒)

医療療養型 180床・透析ベッド 36床
入院 (一般内科・透析)・外来透析・各種健康診断随時ご相談ください

TEL 042-500-2611 FAX 042-500-2612

SASAKI LAW OFFICE 佐々木綜合法律事務所

東京都千代田区神田須田町1丁目26番 芝信神田ビル10階
TEL 03-3255-0091 FAX 03-3255-0094

相続・不動産・企業法務など
さまざまなお悩みを承っております。



東京弁護士会所属
弁護士 佐々木 広行 (昭和61年卒)
[平成28年度 東京弁護士会副会長]

法人経営者及び個人事業主の経営・会計アドバイザー

中島達弥

病院等の医療機関も含めたあらゆる業種の
会計監査、顧問に加え社外監査役や監事も承っております

(略歴)
1990.10 ~ 2020.6 : 有限責任監査法人トーマツ(退所時 パートナー)
2020.7 ~ : 中島達弥公認会計士事務所開設
会計監査、顧問及び社外監査役として協働中

中島達弥公認会計士事務所

S61卒

mobile : 090-3478-8233
e-mail : tat.nakajima@ms01.jicpa.or.jp



院長 清水 崇裕 [平成17年卒]

薄毛治療ならベアAGAクリニック

◆薄毛でお悩みの獨協卒業生の皆様、お気軽にご連絡ください(獨協割あり)。

〒160-0022 東京都新宿区
新宿3丁目14-22 小川ビル4階

https://www.bea-agaclinic.jp/
TEL:03-5925-8241 ※木・祝 休診



次期会長、監事候補者募集

現会長以下執行役員、幹事および監事は、同窓会会則により2024年6月をもって2期6年の任期が満了となります。つきましては次期会長、監事の立候補者を募集いたしますので、同窓会事務室までご連絡をください。

立候補締切日 2024年3月15日

編集後記

獨逸学協会が明治14年(1881)に設立された後、獨逸学協会学校は明治16年(1883)に創立されました。本年10月22日で本校は140周年を迎えました。5ページに掲載しました通り、今年は上田校長による記念行事が10月14日に椿山荘で執り行われました。人口減少の大きな波に動揺される中、建学の精神及び天野貞祐先生の教育方針が絶える事のないよう、微力ながら同窓会も尽力しなければなりません。

毎年、卒業生200余名が新同窓会員に加わります。母校の伝統と校風を誇りに世間の荒波を乗り越えて成長されることを期待いたします。同時に様々な分野でご活躍されて来た諸先輩方との情報交換の場としても同窓会をご活用頂けましたら幸いです。

さて、現在の執行役員は来年6月の総会を機に交代いたします。私が独協通信の編集に携わるのも僅かとなりました。短い間ではございましたが、本編集を通して見聞を広める事が出来ました。お付き合いくださいました会員の皆様に心より御礼申し上げます。



8月19日、久しぶりに新潟の美味しい物ツアーに出かけました。猛暑のため、稲の実りが早いようでした。会津若松と新津を結ぶ磐越西線にも平常が戻って来ました。

(日出谷 - 鹿瀬)

沖山